

## NMN 点滴療法における試薬間較差-当院における成分分析結果から-

村西寛実<sup>1),2)</sup>、小村泰雄<sup>1),2)</sup>

- 1) 医療法人紀隆会 りんくうメディカルクリニック
- 2) 医療法人京都紀隆会 京都御池メディカルクリニック

(はじめに)

NMN(ニコチンアミドモノヌクレオチド)は老化・寿命のコントロールに関わる酵素群に働きかける物質で、現在多くの臨床試験が走っており抗老化作用が期待されている。一方で、その投与方法や安全性、有効性など不明な点も依然として多いのが現状である。NMN 試薬には複数のものが存在しており臨床現場においてはその選択に難渋することが多い。今回、我々は点滴に使用する NMN 試薬の成分分析を行い注意すべき結果を得たためここに報告する。

(目的)

各社から提供されている研究用試薬の成分分析を行い、その試薬間較差を調査する。

(対象・方法)

当クリニック群で使用している、あるいは今後使用を検討している 3 社の NMN 試薬に関してそのエンドトキシン濃度および NMN 含有量の調査を行った。なお、成分分析については(一財)日本食品分析センターへ依頼し実施した。

(結果)

A 社試薬(100mg)における NMN 含有量は 102mg と規格通り含まれておりエンドトキシン濃度は 0.03 であった。B 社試薬(100mg)における NMN 含有量は 100mg と規格通り含まれておりエンドトキシン濃度は 0.3 と許容範囲内であった。一方、C 社試薬(150mg)においては NMN が検出されず、エンドトキシン濃度は 0.37 であった。

(考察)

1 社の NMN 試薬において NMN が含有されていないことが今回確認された。実臨床において投与する前の段階で判明したため実害はなかったものの、NMN については非常に不安定な物質であり製造方法により試薬間較差が存在しており実臨床において注意しておかなければならない結果であった。NMN 試薬の選択には細心の注意を払うことが重要であると考えられた。

(結語)

NMN 試薬には試薬間較差が存在していると考えられ、その成分分析データから信頼できるものを選択し実臨床で用いることが必要である。